

現場の失敗と
その反省
X-10

設計照査不足による施工ミス

1. 工事内容

延長約40mの河川護岸工事で、施工箇所の最上流部には高さ5.5mの帯工を1基、護岸部は連結ブロックを施工するものでした。

2. 失敗

帯工の掘削が終了し1回目のコンクリート打設の時でした。当日は高さ2mまで打ち上げる予定で午前中からコンクリートの打設を開始し順調に進行していたため、私は一旦現場事務所に戻り設計書に目を通していました。その時に今まさに施工している帯工の部分に「目地板設置」という項目があることに気がきました。当然着工前に設計書の照査を行い予算組みもしています。しかし改めて考えても目地板を設置する場所が分からず、不信に思い図面を開きましたがやはり図面には記載されていません。取り急ぎ担当の監督員に電話にて問い合わせたところ、左岸よりの段面に幅50cmの目地板を表面に沿って設置するとの返答でした。目地板設置箇所と施工方法が判明した時点で、すでにコンクリート打設が終盤であった、その日の打設は予定通り継続し、後日対策を検討することにしました。

後日の監督員との打合せで対処方法は硬化後のコンクリート表面に深さ50cm・幅1cmでカッター切りを行い、その後樹脂系接着剤を注入・充填するという対処法で了承をいただきました。しかし50cmの深さを切削できる業者は数少なく、業者が現場に入場するまでに時間がかかり結局3週間の工程の遅れが生じてしまいました。当然予算上予定外の作業で、会社の損害にも

なっていました。

3. 原因

今回の失敗の原因は私が思いもしないところにありました。監督員から説明のあった目地板の施工方法については、設計書に添付されている図面に確かに記載されていました。しかし私が使用していた図面は、日ごろの業務上必要であるという理由でいただいたCADデータの図面でした。当初設計の時点では目地板の施工はありませんでしたが、監督員が必要と判断し図面に記入して設計に計上していたのでした。この点も踏まえて、次の原因があったと思います。まずCADデータで図面をいただいた時点で本図面との照査を怠ってしまったため、変更点に気付くことがありませんでした。また設計書照査の段階で図面との照らし合わせを怠っていなければ、CADデータの図面に疑問を抱くことも出来たと思います。さらに実際にコンクリート打設が近くなった時点で設計書や数量表などで材料の確認をしていましたが、その時も「間違いなどあるはずない」という思い込みで簡単な確認しかしていなかったことも挙げられます。

4. 反省

今回の失敗は全て自分の思い込みと確認・照査不足に起因するもので、計画の段階から失敗することが決まっていたようなものです。工事の計画段階はもちろんのこと、工事期間中も図面や設計書、数量など何度確認してもやりすぎる事はないと痛感しました。